

Lightning

Thanks
40th
Anniversary
徳田出版社

特★集
迷わず選ぶ
秋の服。

11
2013 Vol.235

New
Generation
Styles



Long Work Coat



Early Century Style



Leather Riders Jacket



Award & Flight Jacket

収集家さん、いらっしやい。

トイ&アドバタイジング編 THE ALL AMERICAN COLLECTOR'S SHOW



ずらっと並んだブースには、ミニカー、フィギュア、看板などなど……
かつてのアメリカを彩ったグッズたちが無数に陳列される異様な空間。
ここはアメリカン・アンティークショーの一幕。
いわゆる「コレクタブル」と呼ばれるトイやアドバタイジング系アンティークを
中心としたディーラーたちがカリフォルニア州グレンデールに集合した。
もちろん、自慢のコレクションを見せるだけでなく、売ってもらえるトレードショー。
そんな巨大なショーに潜入してみる。イイ歳こいた大人が血眼になる姿は圧巻。
かつてのアメリカの日常が、今や旧きよき遺産として新しい存在感を放っている。
アメリカンカルチャーはこうして継承されていくんだと実感させられると同時に、
いくつになっても男っていうのは少年なんだと再確認したことはいうまでもない。

Text/L.Young ルックス・ヤング Photo/T.Tawarayama 俣山忠
Special Thanks/THE ALL AMERICAN COLLECTOR'S SHOW www.allamericancal.com

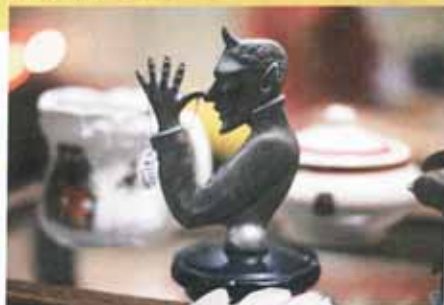


↑開催は2日間。入場料はオフィシャルの間
催時間よりも早く会場内に入れるアーリー
ボードで25ドル。通常の入場料は8ドルだ



↑フィギュアなどの大物は少なく、トイやアドバタイジング系フィギュアがほと
んど占めるので、それぞれのブースを細かくチェックする必要あり

↑当時のカーガイたちが
自慢のホットロッドに装
飾していたデビルズのフ
ードオーナメントは225ド
ル。戦前モデルとの相性
は抜群のパーツである



→ネイティブ・アメリカンの巨大な顔は、
どこかのアミューズメントパークで使わ
れていたモノであろうか？ これを飾
るに相当大きな家が必要である



↑メタル製の飛行機の模型は、
小さいサイズのアンティークは
見かけることが多いけど、こ
こまで巨大なモノは珍しい。存
在感たっぷりの600ドル

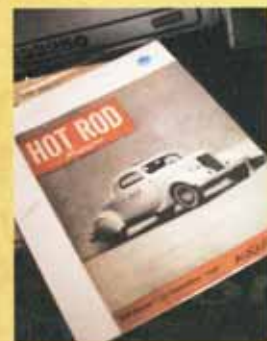


↑'60年代まで存在していた
ビュー・オイルカンパニーのロ
ゴが入ったメタル製の模型は、
無造作に遊び倒された雰囲
気が悪くないでしょ。450ドル



↑クルマと並んでコレクターが
数多く存在するのが飛行機のミ
ニチュア。これはブリティッシュ
エアウエイズがかつて運行さ
せていたコンコルド。800ドル





↑手のひらよりひと回り大きいサイズ感のミニカーは、昔のレースカーらしい砲弾型のボディがカワイイ。現代では出せない味わい。350ドル

→現在も発行されているホットロッド・マガジンも、40年代のころはライフ誌のようなカバーデザイン。ドライレイクをマシンが疾走する。85ドル



↑プランターズを代表するキャラクターであるミスター・ピーナッツの巨大なオブジェ。広告宣伝で作ったにしては気合い入りすぎである。価格も驚愕の5700ドル



↑当時シュウインのディーラーに配られていたバナーがほぼ完璧の状態で存在。1953年製なだけに3色で刷られているところも雰囲気あり。650ドル



↑テキサスを拠点としたバス会社だったコンチネンタル・トレイルウェイズのロゴはイーグルが目印。その実物ロゴがこれ。425ドルという価格に納得

グッズ」といっても、ここにあるのはトイ、アドバタイジング系アイテムを中心としたアンティークのみ。ひとくちにアンティークといっても、いろんなカテゴリーがあるなかで、とくにトイやアド系グッズの特徴はその華やかさ。愛くるしいキャラクターや、色とりどりにデザインされた看板など、かつてのアメリカに、普通に存在していた、まさに「旧きよきアメリカの日常を伝えてくれるグッズ」たちが所狭しと並んでいる。アメリカには実際、この手のアンティークショップやモールなどが点在し、フリーマーケットやガレージセールでも探すことができるけど、このショーの特徴は全米のアンティークディーラーがとっておきのアイテムを持ってくること。つまり普段はショップの奥や、自室のコレクションルームで大事に保管されているアンティークが、ここぞというところでやってくる。それをわかっているコレクターたちがさらに集まってくるわけだから、それは濃い空間になること必至。しかもなかなかお目にかかれないレアな逸品や、程度抜群のアンティークばかり、おまけにそれらは買うことができるので、興味がある人にとってはまさに天国。日本ではこの手のアメリカン・アンティークはまだまだメジャーではないかもしれないけれど、本場アメリカではしっかりとコレクターたちによって支えられているカルチャーなんだと実感できる。もし、この手のアンティークに興味があるのなら、旅行ついでに一度は足を運んでみる価値あり。やっぱりアメリカかって広くて奥深いのである。

→クルマをたくさん所有するのは難しいけど、ミニカーやオーナメントならばたくさん集められるからね。しかもかつのオーナメントは手が込んでいて、まるで芸術作品。これは375ドル



→バンク・オブ・アメリカの現金輸送車のミニカーであるが、銀行名を書いたら、現金を輸送していることがまるわかりだと思っんですけど……とちょっと心配。235ドル



●小さなころからミニカーを収集していたことが、周りに想像できるディーラー。今でも幼かったころの気持ちを忘れることなくここまで来てしまったのだ



↑食肉加工メーカーのオスカー・メイヤーが販促用に、かつて街を走らせていたというウィンナー・モービルのミニチュア。といっても子ども用のペダルカー並みのサイズ



↑鉄製のミスター・ビーナッツは塗装のヤレ加減も雰囲気があってよろしい。価格はペアで30ドルと、比較的良心的である。同じモノを何体も集めて飾るのも楽しい



↑カーラジオが付いているだけで高級車だった時代、今でもトランシーバーや携帯電話でおなじみのモトローラはこんなディスプレイでカーラジオを販売していたのね



←アンティークのショーともなれば、ミッキー・マウスの表情もかなり違う。現在のミッキーしか知らない人にはパロディグッズに見えるかも



↑アイバー・ジョンソン製の自転車は1937年モデル。フルレストアかと思いきや、タイヤも含めたすべてがオリジナルコンディションというから驚く。価格は5000ドル

←エッソのキャラクターだったオイル・ドロップもコレクターが存在するアイテムのひとつ。ご覧のようなオイルライターはなかなか珍しい。75ドル



↓今回からこの歴史あるイベントをプロデュースするジムは自身もアンティークコレクター。彼の手腕でもってこのイベントが盛り上がることは間違いない



↓アメリカでは誰もが知っている国民的漫画「ビートルベレイ」のイラストは1968年のモノ。現地ではミッキー・マウスやスヌーピーにも負けない人気キャラである。65ドル



↓1950年代前後のアメリカン・キャラクターたちはそこまでカラフルではないことを勉強する。造型がけっこうリアルなところがおもしろい



←ぱっと見パティ・リーかと思いきやちょっと違うところに惹かれるガルフのキャラクタードール。しっかりとウィンテージのワークウェアを揃とります



THE ALL AMERICAN COLLECTOR'S SHOW



↑昔のオイル缶は中身にはさすがにプレミアはつかないが、そのパッケージデザインが秀逸なことから、缶そのものがコレクタブルなアイテムになる。中央にあるオイル缶で125ドルって当時の売値以上の価値に。なんだが皮肉



↑アルプス製のホットロッドはプラモデルではなく、電池で動くミニカー。届付きの完品を探すのは至難の業であることはいうまでもない。165ドル

↑子どもに遊び倒されるので、なかなか存在しないアイテムのひとつがご覧のようなアンティークのボードゲーム。絶製の箱がほとんどなので良品はレア



↑色をたくさん使わなくてもフォントやイラストなどで視認性の高いサインを作っていた時代。シンプルなのに存在感のあるデザインは今見ても勉強になる。今でもこの味わいは秀逸だ



↑ミニカーからアド系のキャラクターグッズまで、これを並べるだけでもかなりの時間が必要になりそう。でもその数の多さに惹かれて多くの人がやってくる

→1960年式キャデラックのミニカーは細かい部分まできっちり作り込まれた逸品。価格も1500ドルと一級品であった。ため息が出るほど美しい



アメリカ版骨董市は愛すべきキャラクターたちの宝庫。

なんと40年の歴史を誇るこのショーに出店するのは100ブース以上。年2回、グレンデルで開催されている全米でも最大規模のイベントだ。つまり、濃いコレクターたちが最高のアイテムを持ち寄ってやってくる。次回の開催予定日は2014年1月17日、18日の2日間。気になる人は来年早々渡米の準備をされたし。



←「？」なガラスの物体はインシュレーターと呼ばれる代物。かつて電柱の上部にセットされていた絶縁体である。時代やエリアによって数多くの種類が存在するのでコレクターがいるアイテムのひとつである

↓遊園地にあるメリーゴーランドで使用されていたモーターサイクルは今やオブジェとして売りに出ている。木と鉄を使ったかなり古いプロダクト。950ドル



←機能よりもその雰囲気にとられるアンティークのスーツケース。真ちゅうパーツの造型の細かさや、無造作に貼られたステッカーが最高である。125ドル



←30年代から存在していたキャラクターであるキャプテン・マーベルがデザインされたミニカーは4台セットのボックス入り。価格はセットで500ドル



←レーザーで頭部を守っていたという。今では想像もつかない第二次大戦時の航空ヘルメット。右が495ドルで左が395ドル。どちらもグッドコンディション

